

大学教育学会第37回

2015.6.6 長崎大学

ラウンドテーブル

「学士課程教育における共通教育の質保証」

評価データの併用と質保証のマネジメント：大正大学における取り組み事例

大正大学 人間学部 教育人間学科

高野 篤子

はじめに

- 共通教育に関する仕事
 - (公)横浜市立大学 職員
国際総合科学部と医学部の共通教養
 - (国)秋田大学 センターの教員
教養教育の外部評価
 - 現在 (私)大正大学 学部の教員
- 共通教育を専門教育へ架橋するために必要なマネジメントのティップスとは… 2014年度の試み
- 質保証の「質」

1. サブテーマ4の全国調査

- 共通教育のマネジメントにおける現状と課題を明らかにすることを大きな目的とした全国調査の結果より
 - 学力水準が高く、授業外学修時間が多い大学ほど、教養系科目のマネジメントがしやすい。
 - 共通教育を点検・評価できる機能の存在の有無がPDCAサイクルをまわす上で重要である。
 - 共通教育の教育目標と全学の教育目標とのつながりが意識されているかが、マネジメントを支える一要因となる。
 - 初年次/リメディアル系の科目に比べ教養系科目はマネジメントが難しい。共通教育の領域別マネジメントの在り方を検討する必要性がある。

2. 大正大学

■ 1926(大正15)年 創立 4宗

○大学： 4学部9学科21コース

文学部、表現学部、人間学部、仏教学部

○大学院： 3研究科

仏教学研究科、人間学研究科、文学研究科

○学生数： 学部 4605名 大学院 167名

○教員数： 専任教員 135名 非常勤教員244名

(2014年度)

○教育ビジョン： 4つの人となる

慈悲 自灯明 中道 共生 * 目標と基準

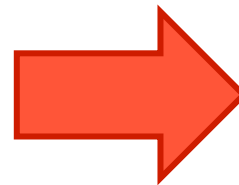
3. 4学部 セメスター制

■ 授業科目の構成

第Ⅰ類科目
(共通科目)

第Ⅱ類科目
(学科の専門科目)
(学部共通)

第Ⅲ類科目
(共通科目)



第Ⅰ類科目
36単位以上
第Ⅱ類科目
8単位以上
合計124単位以上

4. 第 I 類科目(共通科目)

■ 学びの窓口と学びの技法 2014年度

○ 学びの窓口

文化・社会・自然の探求(12単位選択必修)

地域連携・貢献論(2単位必修)

○ 学びの技法

基礎技法A(8単位必修)

基礎技法B(8単位必修)

基礎技法C(2単位必修)

英語(4単位必修)

計 36単位

5. 第 I 類科目「学びの技法B-1」

■ 対象となる受講生 春学期1年生 1115名

■ 到達目標

- 基礎的語彙・漢字を身につけている
- 場面や用途にふさわしい言葉の使い方を学ぶことにより表現力を身につけている
- 文章読解の方法を学び基礎的読解力を身につけている
- さまざまな問題を考察することにより思考力をつけている

6. 第 I 類科目「学びの技法B-1」

■ 実施体制

- プレイスメントテストの実施
- レベル別クラス編成 上、中上、中、初級 計31クラス
- 教育開発推進センター 専任教員 5名 TA 18名

■ 授業内容

- 毎回の漢字小テスト
- 情報収集・情報管理、引用
- 日本語の表記ルール、話し言葉と書き言葉の違い
- 小論文4回

7. 第 I 類科目「学びの技法B-1」

■ 成績・評価

○ 学年全体で統一

出席・受講態度 20%

漢字テスト 30%

小論文 50%

○ 小論文は5名の教員の点数がおおむね統一されるように、 ループブックを採用

文・表現・語彙

表記・原稿用紙の使い方

意見文

* * チェックリスト

8. 第Ⅰ類科目「学びの技法B-1」

■ 小論文執筆力の変化

○どの学科の学生も小論文執筆力は向上

教育人間学科 小論文執筆力のバラつきが縮小

■ 各学科の第Ⅱ類科目との関連 全102シラバス

基礎ゼミⅠ・ⅡとワークショップⅠ・Ⅱ

○アカデミックスキル → 4コース

○専門への導入と半々 → 9コース

○専門への導入がメイン → 8コース

教育人間学科(教職コースと経マネコース)のみ

共通シラバス

***IRデータ

9. 大学IRコンソーシアム 1年生調査

■ 大学IRコンソーシアム1年生調査に見る本学の学生の特徴

○ 教員に親近感を感じた

A大学19% B大学29% 大正大学45%

○ 文章表現の能力が増した

A大学44% B大学51% 大正大学63%

○ 大学教員と顔見知りになる

A大学23% B大学36% 大正大学60%

10. 共通教育のPDCAサイクル

- 執行部
- 教育開発推進センターの教員
(ルーブリック、テスト)
- 総合IR室の教員(学生調査)
- I 類コーディネーター会
- コース教務主任会議
- 教育に関する評価部会 (授業評価)
- 各学部・学科の教員 (ルーブリック、テスト)

おわりに

- アットホームな学風
- 共感力
- データや手法を上手に活用
- 大学生らしい学びの「質」保証
 - 組織 トップレベル ヒト・モノ・カネの管理
 - 組織 ミドルレベル 教務担当
 - 個人 研究者・教育者として自律・自立
- 同僚制 (collegium)

学内データ・資料の作成・提供

教育開発推進センター

小島知善先生 はじめ

春日美穂先生 近藤裕子先生 齋藤智明先生

高橋若木先生 由井恭子先生

畠山仁男先生 吉田俊弘先生

総合IR室 日下田岳史先生 他

ご清聴ありがとうございました

参考文献

- Birnbaum, Robert, 高橋靖直訳, 1992, 『大学経営とリーダーシップ』玉川大学出版部. 原典1988, *How Colleges Works*, San Francisco: Jossey-Bass Inc., Publishers.
- Clark, Burton R., 有本章訳, 1994, 『高等教育システムー大学組織の比較社会学』東信堂. 原典1983, *The Higher Education System: Academic Organization in Cross-National Perspective*, University of California Press.
- 江原武一, 2015, 『大学は社会の希望かー大学改革の実態からその先を読む』東信堂.
- 江原武一・杉本均編著, 2005, 『大学の管理運営改革ー日本の行方と諸外国の動向ー』, 東信堂.
- Frye, Richard, Mckinney, Gary R., and Trimble, Joseph E. eds, 2006, *Tools and Techniques for Program Improvement: A Handbook for Program Review and Assessment of Student Learning*, Western Washington University.